

令和7年度第3回 播磨町都市計画マスタープラン 及び立地適正化計画検討委員会 議事要旨

日時：令和8年2月5日（木） 13：30～14：30

場所：播磨町役場 第1庁舎3階 302会議室

出席者：

（委員）

太田 尚孝、佐伯 亮太、大瀧 金三、木村 晴恵、坂上 哲也、松井 廣司

（事務局：都市計画課）

課長 安立圭一、計画調整担当課長 岡本光嗣

計画調整係主査 中村瑛、計画調整係主事 前田祥吾

欠席者：久保田 洋平 委員

1. 開会

2. 出席状況報告

（委員6名が出席され、当委員会設置要綱の規定により、本日の委員会が成立している旨報告）

3. 報告事項

（1）令和7年度各種会議主要意見と対応方針について

（事務局説明 資料2）

○会長

・今の説明に関し、意見・質問等あれば、お願いしたい。

（特に意見なし）

（2）計画素案に対するパブリックコメント

（事務局説明 資料3）

○会長

・今の説明に関し、意見・質問等あれば、お願いしたい。

○委員

・パブリックコメント提出者の年齢層は把握しているか。

○事務局

- ・個人情報に関係で年齢までは把握しておらず不明である。長年町内で居住された上での率直な意見として受け止めている。

○委員

- ・これまでと比べ、各コミュニティセンターの目立つ場所に資料を置いていたが意見が少なかった点が気になる。周知方法の工夫も今後の課題だろう。

4 協議事項

(1) 播磨町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の原案について

(事務局説明 資料1)

○会長

- ・今の事務局からの説明に関し、意見・質問をいただきたい。

○委員

- ・p106、107のレイアウトについて、前回は見開き構成だったが、p106に「実施時期」についての注釈を追加すると冗長になるか。

○事務局

- ・紙面スペース上問題ないため注釈を追加する。

○委員

- ・第2章の表現について、括弧や記号の太さが異なり見にくいため、①②など番号表記や太字化など、読みやすく工夫してはどうか。

○事務局

- ・現行都市マスと同様、項目は太字、下位項目は細字としているが、最終版では視力の弱い方にも配慮し、見え方を調整する。

○委員

- ・p55でJR土山駅南側と記載されている写真は、Bivi土山がメインの写真となっている。

○事務局

- ・素材を確認し適切な写真があれば差し替え、なければ現状のままとさせていただく。

○委員

- ・総合防災訓練の目標値は総合戦略と整合が取れているか。

○事務局

- ・総合戦略の目標時点（令和12年度で1,100人）を踏まえ、「1,100人以上」という表現に修正した。

○会長

- ・計画原案について最終案として問題ないか。

→異議なし。(全委員)

5. その他

(事務局説明 計画ダイジェスト版)

○会長

- ・ダイジェスト版は計画本編の抜粋としての確認資料か、協議対象か。

○事務局

- ・計画本編に付随するダイジェスト版として作成予定であり、構成や内容は現状案で進めたいが、PRや表現について意見を求めたい。

○委員

- ・QRコードは表紙や裏表紙など目立つ場所の方が良いのではないか。

○事務局

- ・表紙・裏表紙にQRコードを追加する。

○会長

- ・文字量を半分程度に減らした方が読みやすい。

○委員

- ・図は本編のものをそのまま掲載しているが、メリハリをつけてはどうか。また、居住誘導区域、都市機能誘導区域の説明を追記してはどうか。

○委員

- ・一見して文字量が多く、内容理解が難しい印象がある。

○委員

- ・発行部数はどの程度か。

○事務局

- ・現時点では約3,000部程度の印刷を想定している。ダイジェスト版は、まず住民に手に取ってもらうことを重視し、関心を持ってもらえるサイズ感(A5判)を意図して作成している。文字数が多いとのご意見は率直な感想として受け止めるが、計画として記載すべき事項は省かず、必要な内容は記載したい。あわせて、計画本編・概要版・説明動画へ誘導するQRコードを掲載し、必要に応じて詳細を確認できる構成としている。

○会長

- ・居住誘導区域、都市機能誘導区域の説明は入れても良いのではないか。

○事務局

- ・追記する方向で検討する。

○委員

- ・表紙について、和暦と西暦は表記を統一した方が良い。

(事務局説明 みなし認可対象予定施設、届出手引き)

○会長

- ・町 HP 等で公開するのか。

○事務局

- ・町 HP で公開する予定としている。届出については、着手 30 日前の届出が必要となるため、4 月公表の場合は 3 月からの対応が必要となるため、事前周知を行う予定である。

(その他)

○会長

- ・その他意見等なければ、本日が最終回となるため、各委員から一言ずつコメントをお願いしたい。

○委員

- ・都市機能誘導区域の設定により、駅を中心とした都市機能の考え方が分かりやすくなった。都市計画マスタープランと立適を合わせた計画となり、内容も整理された。コンパクトな町で居住と都市機能の区分が可能か疑問もあったが、方針が示され理解できた。

○委員

- ・どの時期にどの部署がどのように対応するのかまで示されると、より実効性のある計画になるのではないか。

○委員

- ・学会等でも住宅地のコミュニティ形成が課題となっている。泉北ニュータウン等では高齢者と若年層の関係づくりを議論していると聞いた。播磨町でも同様に、ハードだけでなくソフト面の取組ができるの良い。

○委員

- ・播磨町は小規模な町という印象だったが、丁寧に検討され分かりやすい計画となった。住民に知ってもらうためのダイジェスト版の取組も良いと思う。

○委員

- ・コンパクトな播磨町において誘導施策を展開する計画を作成できた。今後は交付金制度の活用など財源確保を図り、住み続けたいと思えるまちづくりを進めたい。

○会長

- ・計画を作ることで補助制度の活用が可能となる点はまちづくりを行っていく上で重要である。土山駅と播磨町駅の役割分担を整理できた点は評価できる。一方で播磨町駅周辺は課題が大きく、都市機能誘導区域や高齢者福祉の集積を踏まえ、今後機能充実を図る必要があるだろう。

○事務局

- ・都市マスタープランと立地適正化計画を何のために作るのかを意識し、町の課題整理や将来の見通しを踏まえて検討を進めた。庁内連携や公共交通との連携の必要性も改めて認識した。土山駅と播磨町駅の機能分担の方向性を示すことができ、財政面でも補助制度の活用が見込まれる。また、合冊としたことで行政事務の効率化にもつながると考えている。
- ・2 月 16 日に都市計画審議会へ諮問し、3 月定例議会に議案として上程予定である。町議会議決後、令和 8 年 4 月に公表となる。

6. 閉会

以上